

第一千九十二條 以前不動産ヲ得タル者ノ有スル證書 買入ノ證書
 證ニ動産ト不動産トヲ混合シテ記シタル時又ハ數箇ノ不動産ヲ記
 シ其中ニ書入質ト爲シタルモノアリ或ハ書入質ト爲サ、ルモノア
 リ又ハ書入質ト爲シタル不動産ノ中ニ書入質役所ノ管轄地内ニア
 ルモノアリ或ハ他ノ管轄地ニアルモノアリ又ハ書入質ト爲シタル
 不動産ノ中ニ相合シタル價ニテ買入レタルモノアリ或ハ價ヲ分テ
 買入レタルモノアリ又ハ其不動産ノ中ニ同種ノ耕作ノ法ヲ用フル
 モノアリ或ハ其耕作ノ法ノ相異ナルモノアル時ハ其不動産ヲ得
 ル者此義務ノ書入質ト爲シタル不動産ノ價ハ其證書 前ニ記セシ買
 證ニ記スル全價ノ中幾許彼義務ノ書入質ト爲シタル不動産ハ其全
 價ノ中幾許タルヤヲ見積リ其積高ヲ義務ヲ得可キ者ニ送達スル書
 面 第一千九十三條ニ記入ス可シ
 面 三條ノ書面ニ記入ス可シ

義務ヲ得可キ者ノ中不動産ヲ糶賣ニ爲サントスル者ハ動産並ニ自
 己ノ書入質ノ權ノ記入ヲ得タル其役所ノ管轄内ニアラサル不動産
 ニ付キ元價ヨリ更ニ十分一ノ價ヲ増ス可キ保證ヲ爲スニ及ハス但
 シ管テ其不動産ヲ得タル者ハ其賣主又ハ之ヲ贈遺ト爲シタル者ニ
 對シ其數箇ノ物件ヲ分ツニ付テノ損失ノ價又ハ同一ノ耕作ノ法ヲ
 用ヒタル不動産ヲ分ツニ付テノ損失ノ價ヲ得ント要ムルヲ得可
 シ

○第九章 夫又ハ後見人ノ不動産ニ付キ書入質ノ權ノ記入ア
 ラサル時其權ヲ濫除スル方法

第一千九十三條 後見人其支配ノ事ニ付キ幼者ノ爲メニ己レノ不
 動産ヲ書入質ト爲セシヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入シタルコトナシ
 又ハ夫其婦ノ家資ヲ還與シ又ハ婚姻ノ契約ノ如ク執行ヲニ付キ婦

ノ爲メニ己レノ不動産ヲ書入質ト爲セシヲ記入シタルコトナキ時
ハ其後見人又ハ夫ノ不動産ヲ買入レタル者其不動産ニ付テノ書入
質ノ權ヲ濫除スルコトヲ得可シ

第二千九十四條 其不動産ヲ買入レタル者ハ其濫除ヲ得ル爲メニ
其賣買ノ契約書ノ校正シタル副本一通ヲ其不動産所在ノ地ノ民法
裁判所ノ書記局ニ納メ且婦又ハ後見人ノ監察者並ニ其裁判所ノ檢
事ニ書面ヲ送達シテ其賣買ノ契約書ノ副本ヲ裁判所ノ書記局ニ納
メシ旨ヲ證ス可シ○其契約ヲ爲シタル日附其契約ヲ爲シタル者ノ
姓名職業住所并ニ其不動産ノ種類及ヒ所在ノ地其不動産ノ價及ヒ
其賣拂ニ付テノ費用ヲ記シタル契約書ノ摘撮書ヲ二月間裁判所ノ
訟庭ニ貼附シ置ク可シ○其二月ノ時間ハ婦夫後見人其監察者幼者
治産ノ禁ヲ受ケシ者及ヒ此等ノ者ノ親族朋友又ハ檢事ヨリ其賣拂

フタル不動産ニ付テノ書入質ノ權ヲ書入質管轄者ノ簿冊ニ記入ス
ルコトヲ要ムルヲ得可シ其記入ヲ爲シタル時ハ婚姻ノ契約ヲ結ヒシ
日又ハ後見人ノ其職務ヲ行ヒ始メタル日ニ其書入質ノ權ノ記入ヲ
爲シタルト同一ノ効アリトス但シ此場合ニ於テ夫又ハ後見人婚姻
ノ爲メ又ハ後見ノ職ニ付キ其不動産ヲ既ニ書入質ト爲シタルコトヲ
述フルコトナシ他人ニ之ヲ書入質ト爲シタル時ハ其夫又ハ後見人前
ニ第二千三百三十
六條以下見合 記シタル如ク訴訟ヲ受ク可シ

第二千九十五條 契約書ノ摘撮書ヲ貼附シタルヨリ二月ノ時間ニ
婦幼者治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ不動産ニ付テノ書入質ノ權ヲ其
役所ノ簿冊ニ記入スルコトナキ時ハ婦ノ嫁資ヲ還與シ及ヒ婚姻ノ契
約ノ如ク執行フコト又ハ後見人ノ支配ノ事ニ付テノ書入質ノ權ヲ濫
除シテ其不動産所有ノ權ヲ全ク其買主ニ移ス可シ但シ婦幼者治産

ノ禁ヲ受ケシ者ヨリ夫又ハ後見人ニ對シ訴ヲ爲ス可キノ理アル時
 ハ之ヲ爲スヲ得可シ
 二月ノ時間ニ婦幼者治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ書入質ノ權ノ記入
 シタルト雖モ此等ノ者ノ權ヲ生シタル以前ニ義務ヲ得可キノ
 權ヲ得タル者アリテ其夫又ハ後見人ノ不動産ノ價ノ全部又ハ一部
 ヲ得可キ時ハ其不動産ノ買主其價ノ全部又ハ一部ヲ其義務ヲ得可
 キ者ニ拂フタルニ因リ其不動産ノ全部又ハ一部ニ付テノ書入質ノ
 權ノ濫除ヲ得テ婦幼者治産ノ禁ヲ受ケシ者ノタメ爲シタル書入質
 ノ權ノ記入ヲ全ク塗抹シ又ハ其一部ヲ塗抹ス可シ
 又婦幼者治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ其書入質ノ權ノ記入ヲ爲シ管
 テ其權ヲ生シタル順序他ノ義務ヲ得可キ者ノ權ヲ生シタルニ先チ
 カル時ハ其夫又ハ後見人ノ不動産ノ買主ヨリ其價高チ他ノ義務ヲ

得可キ者ニ拂フテ其婦幼者治産ノ禁ヲ受ケシ者ノタメ爲シタル書
 入質ノ權ノ害ヲ爲ス可カラズ但シ其書入質ノ權ノ記入ハ前條ニ記
 シタル如ク婚姻ノ契約ヲ結ヒタル日又ハ後見人ノ職務ヲ行ヒ始メ
 タル日ニ之ヲ爲シタルニ等シク看做ス可シ○此場合ニ於テハ他ノ
 義務ヲ得可キ者ノ書入質ノ記入中ニテ其義務ノ價ヲ得可キ順序外
 ノモノハ之ヲ塗抹ス可シ

○第十章 書入質役所ノ簿冊ヲ公ニスル事及ヒ書入質管轄者
 ノ擔當ス可キ條件

第二千百九十六條 書入質ノ管轄者ハ其簿冊ニ登記シタル證書ノ寫
 又ハ其簿冊ニ記入シタル債主ノ特權又ハ書入質ノ權ノ記入ノ寫又
 ハ其記入ナキノ請台書ヲ得ント求ムル者アル時ハ此等ノ書類ヲ渡
 ス可シ

第二千九十七條 書入質ノ管轄者ハ左ノ二件ニ因リ生シタル損失ノ償ヲ擔當ス可シ

第一 其簿冊ニ不動産所有ノ權ヲ移ス證書ヲ登記ス可キノ求メテ受ケ又ハ書入質ノ權及ヒ債主ノ特權ノ記入ヲ爲ス可キノ求メテ受ケテ之ヲ怠リタル時

第二 其管轄者現ニ記入シタル一箇又ハ數箇ノ債主ノ特權又ハ書入質ノ權アルヲ忘レ此等ノ權ナキノ請合書ヲ渡シタル時
但シ管轄者記入ヲ求メシ者ノ述フル所不十分ナルニ因リ管轄者ニ過失ヲ歸ス可カラサル時ハ格別ナリトス

第二千九十八條 書入質ノ管轄者不動産ニ付テノ一箇又ハ數箇ノ債主ノ特權及ヒ書入質ノ權アルヲ忘レ此等ノ權ナキノ請合書ヲ渡シタル時其不動産所有ノ權ヲ得タル者其所有ヲ得タル證書ノ登

記ヲ得タル後ニ其管轄者ヨリ全上ノ請合書ヲ得タルニ於テハ其不動産ニ付テノ債主ノ特權及ヒ書入質ノ權ヲ濫除シテ之ヲ所有スルヲ得其管轄者其過失ノ責ニ任ス可シ但シ其不動産ヲ得タル者未ダ其價高ヲ拂ハサル時間又ハ義務ヲ得可キ數人其間ニ定メタル順序ニ付キ裁判所ノ允許ヲ得サル時間ハ其義務ヲ得可キ數人相當ノ順序ヲ以テ其不動産ノ價高ヲ受取ルヲ得可シ

第二千九十九條 書入質ノ管轄者ハ不動産所有ノ權ヲ移ス證書ヲ登記スルヲ書入質ノ權ヲ記入スルヲ書入質ノ權ノ記入ノアサナル請合書ヲ渡スヲ拒ミ又ハ遅延ス可カラス若シ之ヲ拒ミ又ハ遅延スル時ハ其損失ヲ受ケタル者ニ償ヲ爲ス可シ但シ其損失ヲ受ケタル者其償ヲ得ントスルコトハ其旨ヲ願出シ治安裁判役又ハ初告裁判所ノ訟庭掛リノ使吏又ハ其他ノ使吏又ハ證人二員ノ立會ヲ得タル

證書人直ニ其管轄者ノ答ノ調書ヲ記ス可シ

第二千二百條 又書入質ノ管轄者ハ別ニ簿冊ヲ設ケ置キ不動産所有ノ權ヲ移ス證書又ハ書入質ノ權及ヒ債主ノ特權ノ記入ヲ得ル爲メノ箇條書ヲ受取リタル事ヲ毎日番號ヲ附シテ其簿冊ニ書留メ且願出テタル者ニ其差出セシ證書又ハ箇條書ヲ受取リタル旨ヲ證スル書付ヲ渡ス可シ但シ其受取書ハ印紙ニ記シ且之ヲ書留メタル簿冊ノ番號ヲ附記ス可シ○其管轄者ハ不動産所有ノ權ヲ移ス證書又ハ書入質ノ權及ヒ債主ノ特權ノ記入ヲ得ル爲メノ箇條書ヲ受取リタル順序ト日附トニ從ヒ此等ノ書類ヲ簿冊入ノ爲メノ簿冊ヲ云ニ登記シ又ハ記入ス可シ

第二千二百一條 書入質管轄者ノ簿冊ハ皆印紙ヲ用ヒ且其役所所在ノ地ヲ管轄スル初告裁判所ノ裁判役一人其簿冊ノ初葉ヨリ冊尾ニ

至ル迄記號ヲ附シ且姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫ス可シ○其簿冊ハ總テ證書類ヲ記録スル簿冊ノ如ク毎日之ヲ修整ス可シ

第二千二百二條 書入質ノ管轄者ハ其職務ヲ行フニ付キ此章ニ記スル所ノ規則ヲ遵守ス可シ若シ此規則ニ背ク時ハ初犯ニ付テハ二百「フラン」ヨリ少カラズ千「フラン」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ再犯ニ付テハ其職ヲ退ケラル可シ又其管轄者ノ罪ニ因リ損失ヲ受クル者アル時ハ罰金ヨリ先キニ其者ヘノ償ヲ出ス可シ

第二千二百三條 書入質ノ管轄者不動産ニ付テノ證書類ヲ受取リタルコトヲ其簿冊ニ記シ又ハ債主ノ特權及ヒ書入質ノ權ヲ其簿冊ニ記入シ又ハ不動産所有ノ權ヲ移シタル契約書ヲ其簿冊ニ登記スルニハ空行利白ナク之ヲ爲ス可シ若シ其管轄者此規則ニ背ク時ハ千「フラン」ヨリ少カラズ二千「フラン」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受

ケ又其罪ニ因リ損失ヲ受ケタル者アル時ハ罰金ヨリ先キニ其者ハノ償ヲ出ヌ可シ

○第十九卷 義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ事及ヒ義務ヲ得可キ者ノ順序千八百四年三月十九日決定同月二十九日布告

○第一章 義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ事

第二千二百四條 義務ヲ得可キ者ハ左ノ諸件ヲ抵償トシテ奪フ可キコトヲ裁判所ニ訴出スルヲ得可シ

第一 義務ヲ行フ可キ者ノ所有スル不動産及ヒ其不動産ニ附帶

シテ不動産ナリト看做ス可キ物

第二 不動産ニ付キ義務ヲ行フ可キ者ノ有スル入額所得ノ權

第二千二百五條 然レ遺物相續人中ノ一人其相續ス可キ不動産ヲ他ノ相續人ト共通シテ未タ之ヲ分タサル時ハ其相續人ノ一身ヨリ義務ヲ得可キ者他ノ相續人ヲシテ其不動産ヲ分派セシメ又ハ糶賣ト爲サシムルノ手續ヲ爲シタル後ニ非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ奪ヒ賣拂フコトヲ得ヌ又相續人等自カラ其分派又ハ糶賣ヲ爲サントスル時ハ其義務ヲ得可キ者第八百八十二條ニ循ヒ之ニ干涉シテ其分派又ハ糶賣ヲ爲シタル後ニ非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ奪ヒ賣拂フコトヲ得ヌ

第二千二百六條 既ニ後見ヲ免レタルト否トヲ問ハス幼者ヨリ義務ヲ得可キ者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ヨリ義務ヲ得可キ者ハ先ツ其

動産ヲ以テ其義務ノ償ヲ得ルニ充テ用ヒ猶其不足ナル上ニ非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ賣拂フコト得ス

第二千二百七條 丁年者ト幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ト連帶シテ義務ヲ負フタル時又ハ義務ヲ得可キ者其丁年者ニ對シテ既ニ其財産ヲ抵償ト爲ス可キ訴ヲ爲シ始メタル時又ハ其義務ヲ得可キ者治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ未タ之ヲ受ケサル中ニ其財産ヲ抵償ト爲ス可キ訴ニ其者ニ對シテ爲シ始メタル時ハ其丁年者ト幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ト共通スル不動産ヲ抵償トシテ賣拂フ前ニ先ツ其動産ヲ以テ義務ノ償ニ充テ用フルコト必要トセス

第二千二百八條 夫婦ノ共通スル不動産ヲ抵償トシテ賣拂フコトハ婦共夫ト共ニ義務ヲ負フタル時ト雖モ其夫ノミニ對シテ之ヲ訴フ可シ夫婦ノ共通セサル婦ノ不動産ヲ抵償トシテ賣拂フコトハ夫婦雙方ニ對シテ訴フ可シ但シ婦裁判所ニ出ルコト付キ夫ノ幼年ナル時又ハ婦ト共ニ其夫ノ裁判所ニ出ルコト肯セサル時ハ其婦裁判所ヨリ其允許ヲ受ク可シ

又夫婦共ニ幼年ナル時又ハ婦幼年ニシテ丁年ノ夫其婦ト共ニ裁判所ニ出ルコト肯セサル時ハ裁判所ヨリ其婦ノ爲メ特ニ後見人ヲ任シ義務ヲ得可キ者其後見人ニ對シテ不動産ヲ抵償ト爲スノ訴ヲ爲ス可シ

第二千二百九條 義務ヲ得可キ者ハ書入質トシテ得タル不動産ノ不足ナル時ニ非サレハ書入質ト爲サル不動産ノ賣拂ヲ訴フルコトヲ得ス

第二千二百十條 初告裁判所ノ管轄相異ナレル數箇ノ不動産ヲ抵償トシテ賣ヒ之ヲ賣拂フコトハ同時ニ之ヲ訴フ可カラス先ツ其事ヲ一

ノ裁判所ニ訴ヘ次ニ他ノ裁判所ニ訴フ可シ
但シ其不動産相連接シテ且其耕作ノ法同一ナル時ハ格別ナリトス
其不動産相連接シテ其耕作ノ法同一ナル時ハ其不動産中首タル家
屋ノアル部分ヲ管轄スル裁判所ニ其訴ヲ爲シ又首タル家屋ノアラ
カル時ハ地稅ノ目錄ニ從ヒ其入額ノ最モ多キ部分ヲ管轄スル裁判
所ニ其訴ヲ爲ス可シ

第二千二百十一條 書入質ト爲シタル不動産ト書入質ト爲サル不
動產ト同一ノ裁判所管轄内ニ在テ相連接シ且其耕作ノ法同一ナル
時又ハ此等ノ不動産相異ナリタル裁判所ノ管轄ニ屬スルト雖モ相
連接シテ且其耕作ノ法同一ナル時ハ義務ヲ行フ可キ者ノ求メニ從
ヒ此等ノ不動産ヲ同時ニ抵償トシテ賣拂フヲ義務ヲ得可キ者ヨ
リ訴フ可シ但シ此場合ニ於テハ糶賣ト爲シタル其全部ノ價中ニテ

其各部ノ價ヲ秤ル可シ

第二千二百十二條 義務ヲ行フ可キ者其不動産ヨリ一年間得ル所ノ
實利ノ入額ヲ以テ義務ノ母銀息銀並ニ其費用ヲ償フニ足ル可キ
ヲ其不動産賃貸ノ公正ノ證書ヲ以テ證シ且其一年間ノ入額ヲ義務
ヲ得可キ者ニ委遺セントスルヲ述フル時ハ裁判役其不動産ヲ抵
償トシテ奪フ可キノ訴ヲ止メシムルヲ得可シ但シ其後ニ至リ其入
額ヲ以テ義務ヲ得ルニ充テ用フルノ妨ケヲ生シ又ハ故障ヲ述フル
者アル時ハ再ヒ其不動産ヲ抵償トシテ奪フ可キノ訴ヲ爲ス可シ

第二千二百十三條 義務ノ高定リタルモノニシテ且裁判言渡ノ如ク
執行フ可キ旨ヲ記シタル公正ノ證書アルニ非サレハ其不動産ヲ抵
償トシテ賣拂フヲ訴フ可カラス○其義務ノ高定マラサル時ハ其
不動産ヲ抵償トシテ賣拂フノ訴ハ其効アリト雖モ其糶賣ハ其高チ

定メタル後ニ非サレハ爲スヲ得ス

第二千二百十四條 裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キ旨ヲ記シタル證書ヲ讓リ受ケタル者ハ其讓リ受ケノ旨ヲ義務ヲ行フ可キ者ニ報告シタル後ニ非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ奪フヲ得可キ事

第二千二百十五條 其訴訟ハ控訴ニ管セズ假リニ執行ヲ可キ假リノ裁判言渡又ハ確定ノ裁判言渡ヲ以テ之ヲ爲スヲ得可シ然レモ不動産ノ難賣ハ終審ノ確定ノ裁判言渡又ハ控訴スルヲ得サル確定ノ裁判言渡ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラズ

又義務ヲ行フ可キ者ノ抗辯シテ爲シタル裁判言渡ノ時ハ其者ノ故障ヲ述フルヲ得可キ期限内ニ同上ノ訴訟ヲ爲スヲ得ス

第二千二百十六條 其訴訟ハ義務ヲ得可キ者ノ當然得可キ義務ノ高ヨリ更ニ多キ高ニ付キ之ヲ爲シタルヲ口實トシテ取消ス可カラ

ス

第二千二百十七條 義務ヲ得可キ者ハ之ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ可キノ訴訟ヲ爲ス前ニ使吏ヲシテ其義務ヲ行フ可キ者又ハ其住所ニ義務ヲ行フヲ求ムル要決ノ書ヲ送達セシム可シ其要決ノ書ヲ記スル法式及ヒ其訴訟ノ法式ハ訴訟法ニ之ヲ定ム
訴訟法第六百七十三條以下見合

○第二章 義務ヲ得可キ者ノ順序及ヒ不動産價高ノ分派

第二千二百十八條 不動産ノ價高ヲ得ル順序及ヒ其分派並ニ之ヲ取扱フ方法ハ訴訟法ニ之ヲ定ム
訴訟法第六百五十六條以下第六百六十七條以下見合

〇第二十卷 期滿得免ノ權千八百四年三月十五日決定同月二十
五日布告

〇第一章 總規則

第二千二百十九條 期滿得免ノ權トハ法律上ニテ特ニ定メタル規則
ニ循ヒ定期ノ時間ノ經過スルニ因リ物件ノ所有ヲ得又ハ義務ヲ免
ル、權ヲ云フ

第二千二百二十條 何人ニ限ラズ預シメ期滿得免ノ權ヲ拋棄スルコ
トヲ得ス然レ既ニ得タル期滿得免ノ權ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得可シ

第二千二百二十一條 期滿得免ノ權ヲ拋棄スルコトハ明許又ハ默許ヲ
以テ之ヲ爲ス可シ但シ默許ノ拋棄ハ期滿得免ノ權ヲ拋棄シタル可
シト思料スルヲ得可キ景狀ニ管スルモノトス

第二千二百二十二條 人ニ物ヲ賣リ又ハ與フ可キノ權ナキ者ハ既ニ

得タル期滿得免ノ權ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第二千二百二十三條 期滿得免ノ權ヲ得タル者明許又ハ默許ヲ以テ
其權ヲ拋棄シタル時ハ裁判役其職務ヲ以テ其權ヲ復サシムルコトヲ
得ス

第二千二百二十四條 初告裁判所ニ訴出シタルト控訴院ニ訴出シタ
ルトト申問ハス訴訟ヲ爲ス時間何レノ時ニ於テモ期滿得免ノ權アル
コトヲ申述フルヲ得可シ但シ期滿得免ノ權アルコトヲ述ヘサル者其時
ノ模様ニ因リ其權ヲ拋棄シタルト思料ス可キ時ハ格別ナリトス

第二千二百二十五條 義務ヲ行フ可キ者又ハ物件ヲ占有シタル者期
滿得免ノ權ヲ拋棄スルト雖モ其者ヨリ義務ヲ得可キ者又ハ其他期
滿得免ノ權ヲ得ルニ付キ管係アル者ヨリ其權アルコトヲ申述フルヲ
得可シ

第二千二百二十六條 賣買ヲ爲ス可カラサル物件ニ付テハ期滿得免
ノ權ヲ得可カラス

第二千二百二十七條 官府、邑、公舍ハ平民ニ等シク己レ人ノ爲メ期滿
得免ノ權ニ罹リ又ハ己レヨリ人ヲシテ之ニ罹ラシムルヲ得可シ

○第二章 物件ヲ占有スル事

第二千二百二十八條 占有トハ自カラ物件ヲ有シ或ハ權利ヲ行ヒ又
ハ名代人ヲシテ物件ヲ有セシメ或ハ權利ヲ行ハシメ其物件又ハ權
利ヲ己レニ保ツヲ云フ

第二千二百二十九條 期滿得免ノ權ヲ得ルニハ所有者ノ名義ヲ以テ
絶ヘス公ケニ妨ナク物件ヲ占有スルヲ必要トス

第二千二百三十條 初メヨリ他人ノ爲メ物ヲ占有シタルノ證アラサ
ル時ハ自カラ所有者ノ名義ヲ以テ占有シタルト看做ス可シ

第二千二百三十一條 初メヨリ他人ノ爲メ占有シタル時ハ常ニ其名
義ヲ以テ占有シタルト看做ス可シ但シ之ニ反シタル證アル時ハ格
別ナリトス

第二千二百三十二條 人ヨリ宥恕ヲ得タルノミニテハ占有ノ權ヲ得
可カラヌ又期滿得免ノ權ヲ得可カラス

第二千二百三十三條 暴行ヲ以テ占有シタル時ハ期滿得免ノ權ヲ得
可キ占有ニ非ストス

其暴行ヲ止メシ時ヨリ後ニ非サレハ其當然ノ占有ヲ得タルモノト
ス可カラス

第二千二百三十四條 現在ノ占有者以前占有シタルノ證ヲ立ル時ハ
其間ノ時ニ於テモ亦占有シタルト看做ス可シ但シ之ニ反シタル證
アル時ハ格別ナリトス

四七九

第三千二百三十五條 人ヨリ財産ヲ得タル者ハ其全部ヲ得ルノ名義
又ハ其一部ヲ得ルノ名義又ハ償ヲ出サ、ル名義又ハ償ヲ出ス可キ
ノ名義ニテ之ヲ得タル者間ハ其期滿得免ノ權ヲ得ルニ付キ其財産
ヲ與ヘ又ハ讓リタル者ノ占有ノ期限ヲ自己ノ占有ノ期限ニ加フル
ヲ得可シ

○第三章 期滿得免ノ權ヲ得ルヲ能ハサル原由

第三千二百三十六條 他人ノ爲メ占有スル者ハ幾許ノ期限ヲ經ルト
雖モ期滿得免ノ權ヲ得可カラズ

故ニ人ヨリ土地ヲ賃借スル者人ヨリ物件ノ附託ヲ受ケタル者入額
ノミヲ所得ト爲ス者及ヒ其他所有ニ非サル名義ヲ以テ人ノ物件ヲ
占有スル者ハ期滿得免ノ權ヲ得可カラズ

第三千二百三十七條 又前條ニ記スル如ク所有ニ非サル名義ヲ以テ

五七九

物件ヲ占有スル者ノ遺物相續人モ亦期滿得免ノ權ヲ得可カラズ
第三千二百三十八條 然レ前二條ニ記シタル者他人ノ所爲ニ因リ又
ハ自カラ所有者ノ權ヲ拒ムニ因リ物件ヲ有スル名義ノ更改シタル
時ハ期滿得免ノ權ヲ得可シ

第三千二百三十九條 土地ヲ賃借スル者物件ノ附託ヲ受ケル者及ヒ
其他所有ノ名義ニ非スシテ物件ヲ有スル者ヨリ所有ノ權ヲ移ス名
義ニテ物件ヲ得タル者ハ期滿得免ノ權ヲ得可シ

第三千二百四十條 何人ニ限ラズ物件ヲ有スルニ付テハ原由ト方法
トヲ自カラ更改スルヲ得サルニ付テハ證書ニ記シタル名義ニ反
シテ期滿得免ノ權ヲ得可カラズ 第三千二百三
十一條見合

第三千二百四十一條 然レ定期ノ時間訴ヲ受ケサル時ハ其人負フタ
ル義務ノ釋放ヲ得可キニ付テハ其義務ノ證書ノ名義ニ反シテ期滿

得免ノ權ヲ得可シ 第一千二百三十四條見合

○第四章 期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間

ヲ除棄スル原由及ヒ其期限ノ經過ヲ一時停止スル原由

○第一款 期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時

閉ヲ除棄スル原由

第一千二百四十二條 期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル

時間ヲ自然ニ除棄スルコトアリ又ハ法律上ニテ除棄スルコトアリ

第一千二百四十三條 物件ノ占有者其所有者又ハ其他ノ者ノ爲メ一

年以上ノ時間其占有ノ權ヲ奪ハレタル時ハ自然ノ除棄ナリトス

第一千二百四十四條 期滿得免ノ權ヲ得ントスル者其占有スル財産

ニ付キ裁判所ニ呼出ヲ受ケ又ハ義務ヲ行フ可キ要決ノ書ヲ受ケ又

ハ義務ノ償トシテ其財産ヲ差押ヘラレタル時ハ法律上ノ除棄ナリ

トス

第一千二百四十五條 占有者勸解ノ爲メ治安裁判所ニ呼出ヲ受ケ其

後法律上ニ定メタル期限内ニ初告裁判所ニ呼出ヲ受ケタル時ハ期

滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ其勸解ノ爲メ呼

出ノ日ヨリ除棄ス可シ

第一千二百四十六條 占有者裁判所ニ呼出ヲ受ケタル時ハ縱令其所

轄ニ非サル裁判所ニ呼出サレタルト雖モ期滿得免ノ權ヲ得可キ期

限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可シ

第一千二百四十七條

裁判所ヘノ呼出狀法式ニ背キタルコト因リ其効ナキ時

原告人自カラ其訴ヲ止メタル時

原告人其訴訟ヲ永キ時間 訴訟法第三百九十七條見合 其儘ニ捨テ置キタル時

裁判所ニテ其訴ヲ取上ケサル時

此等ノ時ニ於テハ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時
閉テ除棄ス可カラズ

第二千二百四十八條 義務ヲ行フ可キ者又ハ財産ノ占有者其義務ヲ
得可キ者又ハ所有者ノ權ヲ認メタルニ因リ期滿得免ノ權ヲ得可キ
期限ノ既ニ經過シタル時閉テ除棄ス可シ

第二千二百四十九條 前數條ニ循ヒ連帶シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中
一人訴訟ヲ受ケタル時又ハ其一人義務ヲ得可キ者ノ權ヲ認メタル
時ハ他ノ義務ヲ行フ可キ者又ハ其遺物相續人ノ期滿得免ノ權ヲ得
可キ期限ノ既ニ經過シタル時閉テ除棄ス可シ 第一千二百
六條見合
連帶シテ義務ヲ行フ可キ者ノ遺物相續人中ノ一人訴訟ヲ受ケタル
時又ハ其一人義務ヲ得可キ者ノ權ヲ認メタル時ハ縱令其義務ニ付

キ不動産ヲ書入質ト爲シタル時ト雖モ他ノ遺物相續人ノ期滿得免
ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可カラズ但シ其
義務ノ分ツ可カラサルモノタル時ハ格別ナリトス

其遺物相續人中ノ一人訴訟ヲ受ケ又ハ義務ヲ得可キ者ノ權ヲ認メ
タル時ハ其一人ノ負フタル義務ノ部分ノミニ付キ期滿得免ノ權ヲ
得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可シ
其相續人ノ全員ニ付キ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタ
ル時間ヲ除棄セントスルニハ其各相續人ニ對シ訴訟ヲ爲スヲ又ハ
其各相續人ノ義務ヲ得可キ者ノ權ヲ認ムルヲ必要トス

九七九
第二千二百五十條 義務ヲ得可キ者義務ヲ行フ可キ本人ニ對シテ訴
訟ヲ爲シタル時又ハ其本人義務ヲ得可キ者ノ權ヲ認メタル時ハ其
保證人ノ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄

ス可シ

○第二款 期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ一時停止スル理由

第二千二百五十一條 期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ハ別段法律上ニ定メタル所ノ外何レノ人ニ對スト雖モ之ヲ停止スルコトナカル可シ

第二千二百五十二條 幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者ニ對シテハ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可シ但シ第二千二百七十八條ニ記スル所及ヒ其他法律上ニ別段定メタル所ハ格別ナリトス
第二千二百五十三條 又夫婦ノ間ニ於テハ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可シ

第二千二百五十四條 婚姻シタル婦ニ對シテハ其婦婚姻ノ契約書ニ

因リ又ハ裁判言渡ニ因リ其夫ト財產ヲ分ナタルト否トヲ問ハス夫ノ支配スル財產ニ付キ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可カラズ但シ此場合ニ於テハ婦ヨリ其夫ニ對シ償ヲ得ント訴フルノ權アリ

第二千二百五十五條 然レ第千五百六十一條ニ循ヒ嫁資分括ノ法ヲ以テ支配スル婦ノ財產賣拂ニ付テハ夫婦結縁ノ時閉其婦ニ對シテ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可シ

第二千二百五十六條 又左ノ場合ニ於テハ夫婦結縁ノ時閉其婦ニ對シテ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可シ

- 第一 婦其財產ノ共通ヲ解除シタル後其財產ヲ受クルヲ肯スル
- コ又ハ肯セサルコトヲ決シタル上ニ非サレハ自カラ訴訟ヲ爲ス
- コヲ得サル場合

第二 夫其婦ノ承諾ナシテ婦ニ屬スル財産ヲ賣拂ヒ其賣拂フ
タル財産ニ付テノ保證ヲ爲シタル場合 第六條以下見合 其他婦
リ其夫ニ對シテ訴訟ヲ爲スニ至ル可キ場合

第二千二百五十七條 又左ノ諸件ニ付テハ期滿得免ノ權ヲ得可キ期
限ノ經過ヲ停止ス可シ

第一 未必ノ條件ニ管スル義務ニ付テハ其未必ノ條件ノ現ニ生
スル時ニ至ル迄 第八十一條以下見合

第二 賣拂フタル物件ノ保證ニ管シテ爲ス可キ訴訟ニ付テハ其
買主他人ヨリ其物件ヲ奪ハル、時ニ至ル迄 第六百二十
六條以下見合

第三 預定シタル期日ニ至リ得可キ義務ニ付テハ其日ニ至ル迄
第二千二百五十八條 遺物財産ノ價高ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル
ノ特權アル相續人ニ對シテハ其相續人其遺物財産中ヨリ得可キ義

務ニ付キ期滿得免ノ權ヲ得可キ期滿ノ經過ヲ停止ス可シ

遺物相續人ノ虧缺シタル遺物財産ニ對シテハ其管財人ヲ任シタル
ト否トヲ問ハズ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可カラ
ス

第二千二百五十九條 遺物相續人目錄ヲ記スル爲メノ三月ノ期限並
ニ熟思ヲ爲スタメノ四十日ノ期限ノ間ト雖モ他人ノ期滿得免ノ權
ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可カラズ

○第五章 期滿得免ノ權ヲ得ルニ必要ナル期限
○第一款 總規則

第二千二百六十條 期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ハ日ヲ以テ算ス可ク
時ヲ以テ算ス可カラズ

第二千二百六十一條 期限ノ最終ノ日ノ終リシ時ニ至リ期滿得免ノ

權ヲ得可シ

○第二款 三十年ノ期滿得免ノ權

第二千二百六十二條 人權及ヒ物權ニ付テノ訴訟ハ三十年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限トス但シ其期滿得免ノ權ヲ得ントスル者ハ嘗テ其物件ヲ得タル證書ヲ出スニ及ハス又其期滿得免ノ權ヲ得タル妨ケントスル者ハ其期滿得免ノ權ヲ得ントスル者ノ嘗テ不正ニ其物件ヲ所得ト爲シタルコトヲ述フルヲ得ス

第二千二百六十三條 年金ノ證書ノ日附ヨリ二十八年ノ後ニ至リ之ヲ受取ル可キ者又ハ其代權人更ニ其新ナル證書ヲ得ント要ムル時ハ之ヲ拂フ可キ者自費ニテ其新ナル證書ヲ渡サ、ルヲ得ス

第二千二百六十四條 此卷ニ記スル所ヨリ更ニ他ノ條件ニ付テノ期滿得免ノ權ノ規則ハ名其條件ニ管スル卷ニ之ヲ記ス

○第三款 十年ト二十年トノ期滿得免ノ權

第二千二百六十五條 詐偽ナク正シキ證書ニ因リ不動産ヲ占有シタル者ハ其所有者不動産所在ノ地ノ控訴院ノ管轄内ニ住スル時ハ十年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得又其所有者其管轄外ニ住スル時ハ二十年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可シ

第二千二百六十六條 前條ニ記シタル不動産ノ所有者全上ノ控訴院ノ管轄内ト管轄外トニ住シタル時ハ其管轄内ニ居住スル時間ノ十年ニ足ラサル年數ニ其管轄外ニ居住スル年數ノ中其不足ノ年數ヲ二倍シタル數ヲ加ヘ其占有者期滿得免ノ權ヲ得可シ

第二千二百六十七條 法式ニ背キタルニ因リ効ナキ證書ハ十年ト二十年トノ期滿得免ノ權ヲ得可キ憑據ト爲大可カラス

第二千二百六十八條 期滿得免ノ權ヲ得ル者ハ通常正シキ名義ヲ以

テ之ヲ得タリト思料ス可シ故ニ其名義不正ナリト述フル者ハ別段
其證ヲ立ツ可シ

第二千二百六十九條 期滿得免ノ權ヲ得ルニハ財産ヲ占有スル者之
ヲ得タル時正シキ名義アルヲ以テ足レリトス

第二千二百七十條 建築者及ヒ請負人ハ十年ノ後ニ至リ其嘗テ建造
シ又ハ指令シタル建造物ヲ保證スルノ義務ヲ免カル可シ 第九十二條
以下
見合

○第四款 別段ノ期滿得免ノ權

第二千二百七十一條

學藝ノ授業師其毎月授ケタル業ノ謝金ヲ得ルニ付キ爲ス可キ
訴訟

旅舎及ヒ飲食店ノ主人其旅賃及ヒ飲食料ヲ得ルニ付キ爲ス可

キ訴訟

工丁雇夫其給料雇料ノ償ヲ得ルニ付キ爲ス可キ訴訟

此等ノ訴訟ニ付テハ六月ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限トス

第二千二百七十二條

内科外科ノ醫師及ヒ製藥者其訪問診察藥品ニ付キ償ヲ得可キ
訴訟

使吏證書類ヲ送達シ及ヒ裁判所ノ言渡ヲ執行フタルニ付キ其
謝金ヲ得可キ訴訟

商人ヨリ商人ニ非サル者ニ賣拂フタル商品ノ代金ヲ得可キ訴
訟

義塾ノ授業師其子弟ノ飲食料ノ代金ヲ得可キ訴訟及ヒ其他ノ
授業師期限ヲ定メ業ヲ授ケタル子弟ノ飲食料ヲ得可キ訴訟

一年ヲ期トシテ雇フタル僕婢其給料ヲ得可キノ訴訟

此等ノ訴訟ニ付テハ一年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限トス

第二千二百七十三條 訴訟ノ代書師其費用ト謝金トヲ得可キ訴ニ付

テハ訴訟ノ裁判言渡ノ日又ハ原告被告雙方ノ者和解ヲ爲シタル日

又ハ其代書師ヲ易ヘタル日ヨリ二年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可キ

期限トス○又其訴訟ノ未ク終ラサル時ハ其代書師ノ費用ト謝金ト

ヲ得可キ訴ニ付キ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ヲ五年ナリトス

第二千二百七十四條 前數條ノ場合ニ於テ絶ヘス飲食料ヲ給シ商品

ヲ賣リ使用ヲ受ケ造營工作ヲ爲シタルト雖モ期滿得免ノ權ヲ得ン

トスル者之ヲ得ルニ付テハ妨トナルコトナカル可シ

然レ義務ヲ認ムル算計書又ハ義務ヲ行フ可キ私ノ證書或ハ公正ノ

證書アル時又ハ訴訟ヲ受ケタル時ハ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ

經過ヲ除棄ス可シ

第二千二百七十五條 此一款ニ記スル期滿得免ノ權ニ罹リタル者ハ

其期滿得免ノ權ヲ得ントスル者現ニ代金雇料謝金ノ償ヲ爲シタル

ヤ否ヲ知ルコトノ爲メ其者ニ對シ誓ヲ求ムルコトヲ得可シ

又期滿得免ノ權ニ罹リタル者ハ其權ヲ得ントスル者ノ寡婦及ヒ遺

物相續人又其相續人ノ幼年ナル時ハ其後見人ヲシテ既ニ代金雇料

謝金ヲ拂フコト思ヘル旨ヲ述ヘシムル爲メ此等ノ者ニ對シ誓ヲ

求ムルコトヲ得可シ

第二千二百七十六條 裁判役及ヒ代書師ハ訴訟ノ裁判言渡ヨリ五年

ノ後ニ至リ其管守スル證書類ヲ出ス可キノ義務ヲ免カル可シ

又使吏ハ裁判所ノ言渡書ヲ執行ヒ又ハ預カリタル證書類ヲ送達シ

タル時ヨリ二年ノ後ニ至リ此等ノ書類ヲ出ス可キノ義務ヲ免カル

可シ

第二千二百七十七條

無期ノ年金及ヒ畢生間ノ年金

養料トシテ定期毎ニ拂フ可キ金高

家屋及ヒ土地ノ貸賃

貸金ノ息銀及ヒ其他總テ一年毎ニ拂ヒ又ハ更ニ短キ期限毎ニ

拂フ可キ高

此等ノ諸件ニ付テハ五年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限トス

第二千二百七十八條 此一款ノ數條ニ記シタル期滿得免ノ權ニ付テ

ハ幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者ニ對スルト雖モ其期限ノ經過ヲ停

止スルコトナカル可シ但シ此等ノ者ハ其後見人ニ對シテ訴ヲ爲スコ

ト得可シ

第二千二百七十九條 動産ニ付テハ現ニ之ヲ有スルヲ以テ其所有ノ

權ノ證書ヲ有スルニ等シキ効アリト做効ス可シ

然レ動産ヲ見失ヒ又ハ之ヲ盜取セラレシ者ハ之ヲ有スル者ニ對シ

其日ヨリ三年ノ時間其取戻ヲ求ムルコトヲ得可シ但シ之ヲ有スル者

ハ之ヲ己レニ渡シタル者ニ對シ其償ヲ得可キ訴ヲ爲スコトヲ得可シ

第二千二百八十條 贓物又ハ失物ヲ現ニ有スル者市場又ハ糶賣ニテ

之ヲ買ヒ又ハ其品物ト同種類ノ物ヲ賣ル商人ヨリ之ヲ買フタル時

ハ其元來ノ所有者現在之ヲ有スル者ニ其買入レ代金ヲ償ハスシテ

己レニ取戻スコトヲ得ス

第二千二百八十一條 此卷ヲ布告スル時既ニ始マリシ期滿得免ハ以

前ノ法律ニ循フ可シ

一九九 又此布告ノ時既ニ始マリシ期滿得免ト雖レ以前ノ法律ニテ其權ヲ

二九九

得ル爲メ猶更ニ三十年以上ノ時閒ヲ經ルヲ要スルモノハ此布告
ヨリ後三十年ノ期限ヲ以テ其權ヲ得可キモノトス

辻 士革 校

佛蘭西 民法終
法律書

明治十一年四月廿五日出版御届
同 年六月 刻成

出版人 大坂府平民 岡 島 真 七

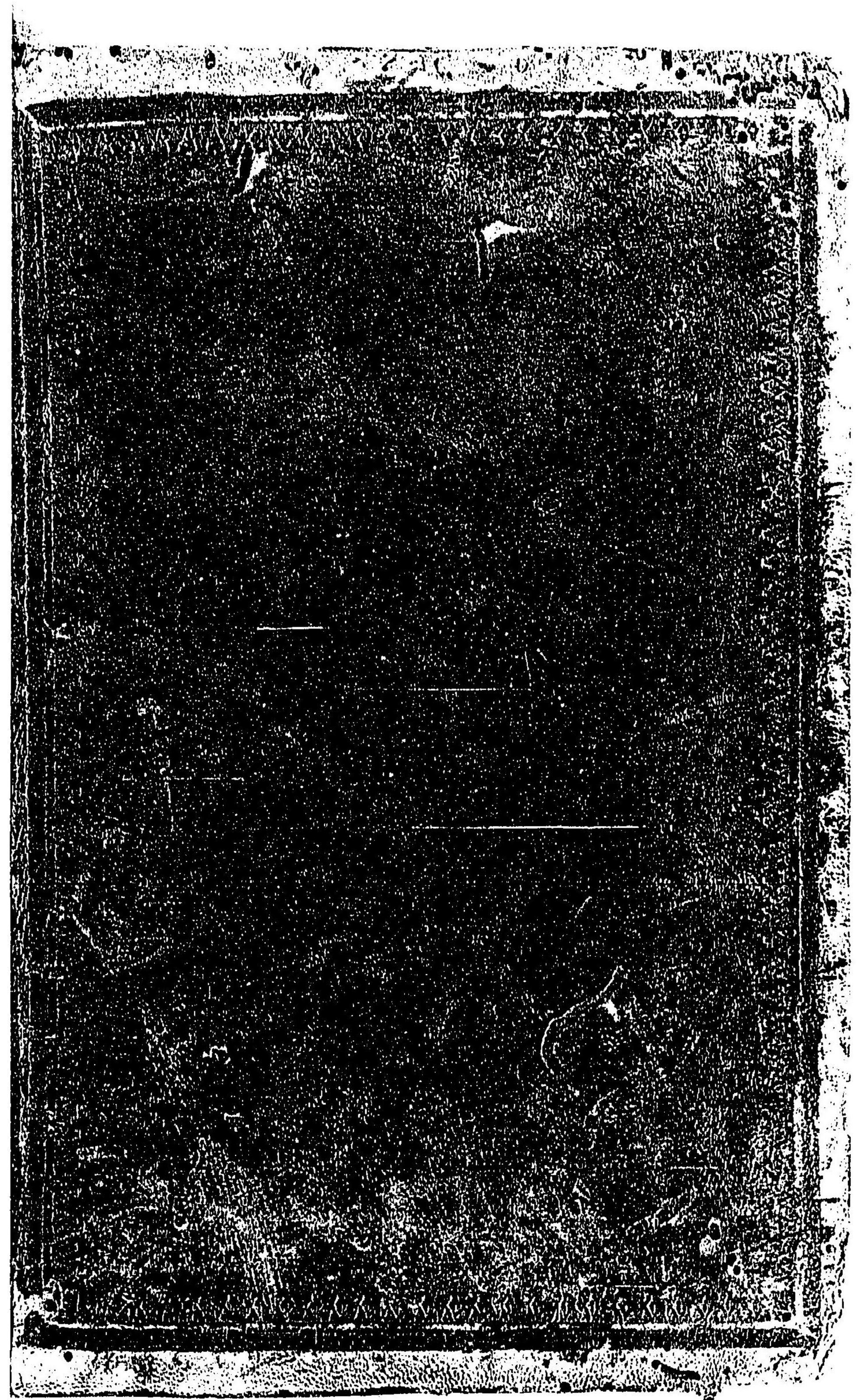
第一大區八小區
本町四丁目十二番地

活版印刷所 同支店 岡 島 幸 治 郎

第一大區八小區
本町四丁目十壹番地

圖八十一





東京大学図書
新門
部
架

031106-001-6

CF2-3-02

仏蘭西法律書

翻訳局/訳

上

M11

BBC-0803



1916
1917
1918
1919
1920
1921
1922
1923
1924
1925
1926
1927
1928
1929
1930
1931
1932
1933
1934
1935
1936
1937
1938
1939
1940
1941
1942
1943
1944
1945
1946
1947
1948
1949
1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025

2451
1916
1917
1918
1919
1920
1921
1922
1923
1924
1925
1926
1927
1928
1929
1930
1931
1932
1933
1934
1935
1936
1937
1938
1939
1940
1941
1942
1943
1944
1945
1946
1947
1948
1949
1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025